

2018年度第1回 インクルファンド助成 選考結果

- 今回の応募団体は8団体、助成申請額の合計7,190,000円に対して助成額は合計6,983,000円でした。
【助成項目の内訳】 新たな事業の立ち上げに関する助成/3件（うち2件は市民版地域福祉計画に基づく事業の立ち上げ）・地域福祉に関する地域の活動/2件・地域福祉に関わる事業継続のためのサポート/3件

活動エリア	企画名	応募団体	助成額(円)
府中市	就労が困難な人たちが年代が異なる人たちと、地域に必要とされる片付け事業を作る	一般社団法人 共働事業所よって屋	3,000,000
八王子市	就労継続支援B型事業所開設	NPO法人こすもす	3,000,000
世田谷区	ねこの縁がわ みいの家 立ち上げプロジェクト	世田谷・ワーカーズまちの縁がわ 千歳烏山「ねこの縁がわ みいの家」	350,000
中野区	中野区の子どもの「遊び場と居場所」の調査及び結果報告シンポジウム	中野区生活クラブ運動グループ 地域協議会	300,000
中野区	「原発事故から8年 福島は今」放射能測定から見る現状	なかのアクション・福島子ども保養プロジェクト	90,000
西東京市	音楽と映像で脳に刺激！ プラチナ世代の居場所づくり	NPO プラス・ド・西東京	100,000
練馬区	リーフレットとHPをリニューアル	ワーカーズまちの縁がわ・楽多舎	100,000
世田谷区	家庭訪問型子育て支援ホームスタートホームビジタースキルアップ講座と活動のための費用援助	ワーカーズ・コレクティブ 子育て応援チームすこっぴ	43,000

参加者募集中！



■ 安心ネットワーク構想連絡会

2019年2月14日(木) 10:30~12:30

会場：生活クラブ館スペース2 (世田谷区宮坂3-13-13 小田急線経堂駅徒歩3分)
 市民版地域福祉計画を策定した府中、策定中の東村山など各地域協議会の活動報告や意見交換を行い、それぞれの地域の活動に生かします。

主催・問合せ先：インクルーシブ事業連合 電話03-5426-5207 担当：平岡・藤田

地域協議会
集まれ！

■ 『思春期・青年期 心の成長どうよりそう？』

2019年3月7日(木) 13:30~16:00 (開場 13:15)

NPO法人アビリティクラブたすけあい (ACT) 公開講座
 思春期・青年期をどう支えれば良いか、一緒に考えましょう。
 講師：児童精神科医 田中 哲先生 (都立小児総合医療センター副院長)

参加費：500円 定員：50名

会場：府中市 市民活動センタープラッツ 6階 第5会議室
 府中市宮町1丁目100番地 ル・シーニュー 京王線府中駅から徒歩1分(駅直結)

主催・問合せ先：NPO法人アビリティクラブたすけあい 電話：03-5302-0393 URL <http://npoact.org/>



■ 2018年度『ACT市民後見人養成 基礎講座』

2019年3月16日(土) ①10:00~12:00 ②13:00~15:00

3月23日(土) ③10:00~12:00 ④13:00~15:00

- ①成年後見制度の概要・基礎
- ②後見申し立てから後見等開始までの流れ
- ③対象者への理解と対応
- ④後見人の職務・実務

いつまでも地域で暮らし続けるための最後までパートナー「市民後見人(任意後見人)」になりませんか？成年後見制度を知る基礎講座を開催します。

受講料：1講座3000円 全講座受講者9000円 (ACT会員6000円)

定員：15名 会場：ACT会議室(中野区本町1-13-18 大新NSビル2F)

主催・問合せ先：NPO法人アビリティクラブたすけあい 電話：03-5302-0393 URL <http://npoact.org/>



フードバンク狛江「もったいない」を「いただきます」へ



NPO法人フードバンク狛江の理事長、田中妙幸さんにお話を伺いました。田中さんは生活クラブの組合員でもあります。活動を始めたきっかけは、近所に暮らす一人親世帯の子どもとの出会い。母さんがフルタイムで働き帰りが遅くなる日も少なくないのに生活はとても厳しいという、そんな大変な状況がすぐ近くにあることを知り、何かできないかと行動を開始。2014年に「フードバンクを考える会」を発足。2015年に2回の学習会を開催した後「フードバンク狛江」として活動を本格化、2016年5月にはNPO法人となりました。

現在、狛江市の生活困窮相談窓口「こまYELL」を通じて無償で食べ物に困っている方へ提供しています。個々の家庭の状況や料理のスキルなどに応じた分類に沿って中身を組み合わせ、多いときで1回11世帯分を準備します。寄付された食品はトレーサビリティを確保するため、種類によって分類され賞味期限や状態は必要な人に届くまで計4回のチェックを経ており、細やかな対応をされています。こまYELLが学習支援を行う19世帯に対して年4回 お菓子や飲み物の支援も行っています。フードバンク狛江のこれまでの支援回数は、のべ1500回以上になっています。また、狛江市社会福祉協議会・こまえくぼ1234・こまえ苑・こまえ正吉苑・ピン・缶リサイクルセンターにフードドライブケースを設置して食品の寄付をお願いしています。

食品は市民の支援のほか、企業や生協からの支援で運営されており、賛助会員を含めた会員数は100名、賛助団体は5団体。2017年6月には狛江市と食料支援の協定を結び、家賃補助を受けています。

2017年には、狛江市が402名の児童扶養手当認定世帯へ現況届けの案内にアンケートも同送。アンケートの結果(160名回答)、現在の暮らしについて「大変苦しい・苦しい」が72%に上り、過去1年間食料を買えなかったことが「時々あった」「良くあった」が約17%もありました。そして希望する44世帯には食料を提供しました。

地域の連携でSOSとつながる

支援が必要な人は多いが、食の支援だけでは根本的な解決になりません。包括的、継続的支援が必要です。そこで、市内の福祉団体に呼びかけ参加12団体と交流会を行い、情報交換なども行いました。しかし、継続的な支援はボランティアだけでは成り立たちません。行政、企業、生協などからのバックアップ、さらに法整備も必要です。

支援を受けた方は、食べ物が届くのも嬉しいが、何より時間を割いて気にかけてくれる人がいることが嬉しいのです、と田中さん。自己責任で終わらせない、生きやすい社会をつくりたいという理念が活動に活かされています。

学校給食のない冬休みに

一人親の子どもたちに食べものを届けよう！
 フードバンク狛江ではFAAVOのクラウドファンディングに挑戦中です。目標額は15万円、期限は2018年12月28日までです。ぜひご協力を！

*アクセスはこちらから

<https://faavo.jp/tokyochofufuchu/project/3228>



介護の日フォーラム 人生100年 どうする日本の福祉『我が事・丸ごと』カネがいる！

10月20日、東京ウィメンズプラザにて介護の日フォーラム実行委員会(事務局・ACT、神奈川ネットワーク運動)による「第3回介護の日フォーラム」が開催されました。



市民福祉情報オフィスハスカップ主宰の小竹雅子さんの基調講演「まだ変わる！介護保険」では、要支援1・2のホームヘルプサービスとデイサービスは給付からはずされ、市区町村の事業に移行しましたが、市区町村が事業を安定的に提供できているかどうか、把握できる調査がないことが指摘されました。

そして10月には、要介護1~5の人がホームヘルプサービスの「生活援助」を厚生労働省が定めた回数を超えて利用する場合、ケアマネジャーは、市区町村にケアプランを事前に届け出ることが義務づけられました。平均は月10回程度なのに、月30回、中には100回利用している人がいるとの批判からです。しかし、要介護になっても施設ではなく在宅で暮らし続けたい、またそうせざるを得ないとき1日3回(月90回)の生活援

助は多いと言えるでしょうか。一人暮らし、老老介護、日中独居などの場合、まったく足りないのではないのでしょうか。

介護保険の見直しにかかわる社会保障審査会にほぼ皆勤で傍聴を行ってきた小竹さん。要介護1・2は現場では軽い人とは言えないが、審査会に出席している関係団体からの意見は玉虫色で、現場の声が届いていないと言います。また、介護保険部会や介護給付費分科会の委員の女性比率は1割に止まることも大きな課題です。

第2部では居宅介護事業所や訪問介護事業所、居場所を運営する団体等からの報告があり、生活クラブ東京からも東京都の居場所づくり関連の補助金の自治体調査について報告を行いました。

最後に介護保険制度に係る厚生労働省への要望書が読み上げられ、制度の改善に向けて現場からの声をあげ続けていくことを確認しました。

インクルーシブ事業連合事務局 平岡晴子